

学部の担当科目は社会統計学と情報経済論で、研究では情報化・サービス化が経済にもたらした効果を統計的に分析しています。専門は経済系出身なのでゼミテーマについても産業・ビジネスの視点から興味を持っていますが、皆さんの議論にも大いに学んで多面的に接近したいと考えています。個人的にも iTunes や YouTube を利用することが頻繁にあり、IT 化がコンテンツ流通にもたらした衝撃の大きさを日々感じています。

### 1. 専門演習の目標

- ・日本の音楽産業の戦後の展開について理解を深める。
- ・IT 化がコンテンツ産業にもたらした影響について理解を深める。
- ・デジタルコンテンツ流通に関わる著作権保護の仕組み、著作権問題について理解する。
- ・コピーが容易になった時代に対応した、コンテンツ産業のビジネスモデルを探求する。

### 2. 専門演習で扱う課題と内容

1998 年以降、音楽産業の長期不況が続いている。CD からネット配信へと流通形態が転換する中で、違法コピーの氾濫、DRM（デジタル著作権管理）緩和の動き、一部 SNS 上での無料配信サービスの開始など、産業としての将来は必ずしも楽観できるものではない。CD 売りに依存してきた従来の音楽産業のビジネス・モデルが崩れつつある現在、レコード会社の役割も大きな変革を求められているように思われる。コンテンツ産業一般においても、コピーが容易になった時代における新たなビジネス・モデルが求められている。本演習では、音楽産業を中心として、IT 化のもとでコンテンツ産業が直面している諸問題と将来について考えてみたい。具体的な論点は以下のようなものである。

- ・日本における音楽産業の歴史と展開
- ・IT 化時代におけるコンテンツ産業のビジネス・モデル
- ・IT 化時代における著作権保護
- ・コンテンツの無料配信ビジネスモデル

### 3. 授業の進め方・内容

3 回生前期：音楽産業を中心にデジタル・コンテンツ産業の現状と課題・問題点について基本文献をもとに幅広く学びます。テキストにもとづく報告と討論によってゼミをすすめます。夏休み合宿などを取り入れて個別テーマをより深く集中的に学ぶ機会も取り入れます。

3 回生後期：前期の学習をベースに、4 回生での卒業研

究レポートの執筆を視野に入れ重点的に取り上げるテーマを絞り込みます。テーマごとに班・グループを形成して集团的なリサーチを行います。

4 回生前期：3 回生で学んだ内容をベースに、各人が関心ある分野を絞って卒業研究レポートのテーマの具体化をはかります。基本的には個人毎のレポートとしますが、場合によってはグループによるレポートも認めます。

4 回生後期：個人・グループの卒業研究レポートの完成に向けて、細かい点のチェックを含めて最終的な執筆を進めます。4 年間のまとめにふさわしい内容・形式に仕上げます。

### 4. 必要とする知識

特別な専門的知識は前提としませんが、デジタル・コンテンツ産業の大まかな動向、ビジネス・モデル、著作権などについて興味関心と学ぶ意欲があることが必要です。

### 5. 関連する分野・科目・知識

インターネット、ネットビジネス、エンタテインメント産業、著作権、放送と通信などにかかわる分野・科目が関連します。「情報経済論」で関連分野を取り上げますが、メディア社会専攻の多くの科目の内容が関わります。

### 6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

八木良太『日本の音楽産業はどう変わるのか』東洋経済新報社、新宅純二郎・柳川範之編『フリーコピーの経済学』日本経済新聞社

### 7. 独自に付加する選考方法

特になし

### 8. 受講生に望むこと

自主的・積極的なゼミ生であること。文献をきちんと読むこと。